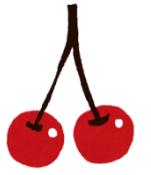




イレブンエクシード通信 3月号



経営理念

～一人でも多くの幸せのために～

幸福は自分一人では感じにくいです。また、自分のためだけの幸福は本当の幸福とはいいいにくい。誰かのために仕事をする、誰かのために役に立つこと、誰かのためにやったことで感謝される、周りに感謝をする。それこそが幸福と実感する。充足感を感じることができる。そんな社会を目指していきたいです。

私達の目的

仕事を通じて一人でも多くの人々に安全で安心した生活を提供し、喜びに満ち溢れた幸福な社会を目指していきます。



第10回イレブンエクシード新年交流会

今年のテーマは
繋がり

2月9日に日頃お世話になっている協力会社様との「新年交流会」が開催されました。当日はご多忙のなか、30社31名もの多くの協力会社様に参加いただきました。今年は参加いただいた皆様同士の「横のつながり」を作る機会にしたいという思いを込めて、「新年交流会」としました。



会のなかでは参加いただいた皆様に「仕事が伝わる自己紹介」をしていただきました。「あの人は何が得意か」をお互いに知ることによって「困ったときに相談できる相手」そんな関係をこの会を通じて協力会社の皆様と築いていきたいと思っております。

感謝

弊社は、たくさんの協力会社様に支えていただいております。お客様のところにもお邪魔する機会がありましたら、その節は、宜しくお願い申し上げます。



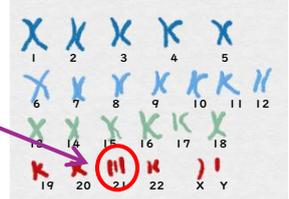
3月21日は世界のダウン症の日

毎年3月号は世界のダウン症の日をとりあげています

ダウン症をより多くの方に知っていただけるように掲載させていただいております。

ダウン症とは

- ・突然変異によって染色体の21本目が通常では2本ですが、3本あります
- ・成長はゆっくりです
- ・先天性の心疾患や消火器疾患などの合併症を合わせてもつこともあります



今回は私が最近観た作品を紹介したいと思います

作品名は《わたしはダフネ》です。

この作品は2019年にベルリン国際映画祭で

パノラマ部門国際批評家連盟賞を受賞した作品になります。

ダウン症のダフネはスーパーで働きながら両親と3人で暮らしていました。

ある日、母が亡くなったことで、父ルイジは不安でふさぎ込むようになり、ダフネは父を母の故郷の村へ2人で旅へすることを提案し、悲しみを乗り越えお互いの仲を深めていくという作品です。



この作品を観ての感想

まずこの映画を選んだ理由は、いろいろな国のダウン症を抱えた家族の葛藤、試練などにどう乗り越えていくのか、最後には幸せな家族の温もりが伝わってくるという作品と知り選びました。

お母さんが亡くなって自分も悲しい思いをしている中、お父さんと一緒に旅へ出る提案をし、ダフネは強く前へ進もうとしている姿に心を打たれました。

ダフネは職場でも愛される存在。バスではお年寄りに席を譲る優しさ。

ある日、掃除をしている時に花瓶の中から空気が少し残った絞れた風船を見つけて自分の宝箱に入れ、それをお父さんとの旅に持っていきました。お父さんに、この風船の中にはお母さんの息が入っている。お母さんはこの中で生きている。ダフネは大事に風船を撫でている姿はすごく感動しました。

この映画でダフネの生き方にはすごく驚かされることばかりでした。



この世界のダウン症の日という日があることによって私は息子と向き合えたり、こういった作品とめぐり合えたりできています。

私はこの《わたしはダフネ》を観て一番の印象に残っている言葉が

旅先の宿の婦人から「この子を育てるのは大変だったのでは？」という言葉にお父さんは「生まれて3日は病院に行くのも嫌で顔も見られなかった。けどお母さんがこの子を匂ってみて。皆と同じ匂いでしょう？」と言われて自分の考え方も変わってきたという部分でした。言葉1つで考え方も変えられるということです。

ダウン症とは、障がいとは、何かということも多くの方に理解していただいて世の中が住みやすい環境になることを願っています。

編集担当 岡本知子



「イレブンエクシード通信」は、弊社とお取引させていただいた方に送付させていただきます。

ご不要の場合は、恐れ入りますが、ご一報ください。

